つみきのキモチ
2022.12.10
vol.19
利府駅前tsumikiから
まち・ひと・しごとを発信
tsumiki

特集
利府町の地域資源を考えるシリーズ
漁業編

十符の里びと18人目
華房一輪
佐々木真由美さん

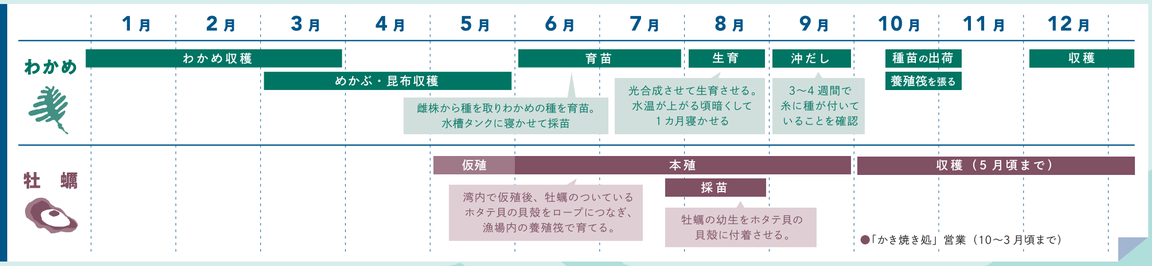
From RIFU-CHO CHALLENGER
ラジオパーソナリティ・ミュージシャン
アサノタケフミさん

特集 利府町の地域資源を考えるシリーズ 漁業編

利府町は、宮城県総合運動場グランディ・21や東北最大級のイオンモールなど大規模な公園や商業施設が充実し、内陸部には新興住宅街が広がり、近年では住みたいまちとして上位にランクインしています。
一方で、沿岸部は日本三景の一角をなす「表松島」の景観を有しています。近年では、観光漁業・体験漁業といった新たな生業も注目を集め、松島湾に面する浜田（はまだ）地区、須賀（すか）地区（通称：ハマスカ）のPRイベントなども行われています。
この地区には浜田漁港と須賀漁港の2つの第1種漁港があり、浜田漁港では、牡蠣を養殖し、浜田かき生産組合で牡蠣の直売が行われ、須賀漁港では、わかめ、昆布、海苔の養殖業を中心とした漁業が行われています。
町の地域資源である漁業の現状はどうなっているか、浜田と須賀で漁業・養殖業を生業としている方々にお話を伺ってきました。

取材・文　葛西淳子

養殖カレンダー



SU KA 須賀漁港 わかめ

株式会社光洋水産 取締役　櫻井礼子（さくらい れいこ）さん

須賀漁港周辺は、古くから海苔やわかめ・昆布などの養殖が盛んに行われている漁師町でした。「光洋丸」の屋号で漁業を営んでいた礼子さんの父親の時代は、秋冬期には牡蠣や海苔養殖を、春から秋口にかけては小漁（こりょう）に出かけ、刺網漁や小型定置網漁を行いスズキやサケなどを獲っていたそうです。

海の環境の変化などもあり、だんだん海苔の養殖が不調になってくると、漁の主軸は、わかめ・昆布の養殖に移っていきました。平成28年に法人化し光洋水産の事業内容も、わかめの種苗、収穫、塩蔵加工へ切替わっていきました。

わかめの養殖は、6月頃に雌株から採った種を育苗タンクに寝かせて採苗。9月頃、沖出しといって、苗を海に戻して育てます。その間、わかめの汚れを一枚ずつ洗う作業も定期的に行います。収穫時期は、12〜3月。3〜5月にかけては、めかぶ・昆布の収穫期に入ります。

さらに息子の涼平さんが事業継承し社長になってからは、わかめの種苗作りの新規事業にも着手しました。宮城県内でも種苗を作っているところは少なく稀少価値があると考えたからです。現在では漁師や漁協組合などからの注文が増え、養殖業のオフシーズンにおける安定した収入源になっています。

今年は、工場内に調理場を整備しました。今後は利府町に特化した加工製品づくりに取り組みたいと考えています。例えば、煮付け昆布の製造です。元々は昆布の食べ方を紹介する試食品でしたが、美味しいと評判になり商品化しました。ふるさと納税返礼品やネット販売などを活用し、販路拡大に取り組む予定です。他にも、めかぶ・あかもく（ギバサ）など地元の素材を使用し、手作りにこだわった商品開発に力を入れるなど動き出しています。

漁業の将来は、後継者不足など難しい問題もありますが「生業として生計が成り立たなければ、辞めざるを得ない」と礼子さんは指摘し「作業は大変ですけど、やった分だけちゃんと返ってくることが分かっているので、仕事をしていて楽しいです」と海の仕事は、やりがいがあると胸を張ります。

開発している商品の一部

わかめの芯ぬき作業

HA MA DA 浜田漁港 牡蠣

牡蠣養殖　櫻井博之（さくらい ひろゆき）さん

櫻井博之さんは、浜田で牡蠣養殖を生業とする漁師です。牡蠣養殖は、浜田の漁場で海苔養殖が下火になってきた頃、それに代わる仕事として、父親が地元の漁師仲間を8名ほど集めて始めた事業でした。年月が経ち仲間の漁師たちは高齢を理由に引退。現在では父親の後を継いだ博之さん1人だけになってしまいました。

普通、牡蠣は出荷まで2〜3年かかると言われていますが、浜田の牡蠣は1年で出荷できる品質に育ちます。毎年海水温の変化など気象状況に影響されたり、突発的に病気が発生したりと苦労も多い養殖ですが、山からの栄養分をたっぷり含んだ水が流れ込み成長に良い環境で育った浜田の牡蠣は、やや小粒ですがぷっくりと肥えて、味が凝縮され濃厚なのが特長です。

水揚げされた牡蠣は、利府浜田かき生産組合が運営するカキ処理場に運ばれます。ここで牡蠣むきから殻の処理まで出荷の準備を行います。そして併設する直売所店頭での小売り販売、生産量の多くは卸しを通さずに直接販売しています。

採れたての牡蠣をその場で食べたいというお客さんの要望を受けて、2009年からは牡蠣小屋「かき焼き処」で牡蠣を蒸し焼きにして提供しています。営業期間は、10月から3月頃まで。昔の馴染みのお客さんや口コミで町内外から訪ねてくる方も多いそうです。

「おいしいって言ってくれる人がいて、食べに来てくれる人がいることが励みになります」と博之さん。「従事者の高齢化など課題はありますが、生業として継続できるやり方を探していきたいです」と今後の見通しを語ってくれました。

収穫された牡蠣

並んで立つかき直売所とかき焼き処

浜田の牡蠣むき名人

櫻井律子（さくらいりつこ）さん

浜田の牡蠣むき名人と評判の櫻井律子さんは、昭和9年生まれ松島町磯崎の浜育ちです。小さい頃から学校から帰ると、牡蠣養殖業を営む実家の手伝いをしていたので牡蠣むきは慣れたもの。浜田漁港での牡蠣収穫の最盛期には、早朝から夕方4時頃まで1日で18〜20kgの牡蠣を剥いて出荷していたそうです。海の仕事は重労働で辛い作業が多いなか、律子さんは「仕事に張り合いがあったし、楽しかったよ」と言います。

今、浜田の主な漁業は牡蠣の養殖になっていますが、律子さんが嫁に来た頃は、まだ海苔養殖を行っていた漁師が何人かいたそうです。その海苔作りは、ほとんどが家族経営。養殖して収穫した海苔を自宅の乾燥機で乾かし、海苔箱に詰めて出荷するまでを家内総出で担っていました。「私が手作りした利府の海苔だもの、そりゃ美味しくて質も良く自慢の品だよ」と話してくれました。

利府町のんびりまち歩き

RIFU2022 レガシーイベント

案内人●地域おこし協力隊・観光プロモーターの李訓承さん

東京2020オリンピックの聖火リレーから1年を記念する「レガシーイベント」として、聖火ロードをRPGゲーム感覚で楽しむウオークラリーを開催しました。企画者の李さんといっしょに、6月18日（土）に行なわれたイベントをふりかえってみましょう。

「リアルRPGゲーム」

復興五輪にちなんだ5つのスポットを巡ってクエストに挑戦。クリアすると報酬としてカードがもらえます。ゲーム中に集めたカードをペットボトルキャップと交換しパネルにはめ込んで、未完成のモニュメント「ペットキャップアート」を完成させよう！

スタート！

① 利府町役場

熊谷町長がお茶席を設けおもてなし。

お茶を一服どうぞ

とりあえず受付でスポーツカードをゲット！

② イオンモール新利府 北館・駐車場

スウェーデン発祥のモルックやレクリエーションスポーツを体験。

まちおこし支援協力会りふくるの仲間と「モルック」体験

レクリエーションスポーツ「バッゴー」担当は、東北福祉大学の学生ボランティア

体験して「棒」ゲット!?

「棒」に火が点いて「聖火」に！

③ 沢乙遊歩道

サッカーボールを形取ったオブジェの前では、ファインビッツチアリーダーズがエールでお出迎え。

みんなで協力

学生町おこし協力隊マチトリンクも手伝って、どんな絵ができるかな？

ゴール！

④ 菅谷台遊歩道

「聖火」カードと集めたカードを持ち寄ってキャップと交換し、ペットキャップアート作成。十符の里の妖精リーフちゃんとキャラクターたちの絵柄が浮かびあがっていきます。

いたるところに利府クイズが！

???

キッチンカーフェスティバル

⑤ 菅谷台緑地

会場では、利府町を中心に移動販売しているコーヒー専門店some blue coffeeなど12台が出店。

利府おもて梨園の近江貴之さんは「金の利府梨カレー」を販売。

some blue coffee

完成！　みんなの協力で大成功！

利府町には、スポーツ観戦やコンサート鑑賞に町内外からたくさんのお客様が訪れます。これからも、レガシーをつなぐおもてなしロードとして盛り上げていきたいです。

18人目

十符の里びと

-お名前

佐々木 真由美さん

- なにをしているひとですか？

花屋「華房一輪」の店主です

生活の中に働く場をつくり 家庭と仕事を両立するしなやかな働き方

利府町菅谷台に自宅兼店舗を開業。店内では、押し花、プリザーブドフラワーなどを取り扱っています。また要望に応じて花教室、出張講座も行います。オンラインショップでは、ギフト用アレンジメントからワークショップキット、押し花素材を販売。利府町ふるさと納税返礼品として、町内の梨畑より摘み取った梨の花を押し花にした作品などを提供するなど多方面で活躍しています。

将来は花屋さんの夢が叶う

結婚を機に利府町に移り住んで20年になった佐々木さんが、利府町に新居を構えた一番の理由は、子育てがしやすい環境だったからだと言います。家事や子育てをしながら、自分が好きな花の仕事をしたいと思っていた佐々木さんは、住居の一部屋を店舗用として設計し、華房一輪を開業しました。

「今やらないといつまでも実現しないと思ったので、若い勢いではじめてしまいました」と言う佐々木さんですが、きちんとした経営方針を決めてのスタートでした。家族のことを優先にすることと、家計と店の経理は別にすること。そして、5年後にどうなりたいかを見据えた計画を立て、最初は自分ひとりでできる範囲から足固めをしていくことでした。

自宅店舗は、家賃が掛からないというメリットがあります。一方で仕事に集中すればするほど自分の時間が奪われてしまうことが悩みでもありました。それでも佐々木さんにとっては、「おかえりなさい」と、夫や子どもたちの帰りを自宅で迎えることができる仕事の仕方が一番良かったようです。

環境に合わせ 事業計画は5年毎に更新

華房一輪は、ドライフラワー、プリザーブドフラワー、ハーバリウムフラワーなどの作品販売と、店内で行うプライベートレッスン、町内外への出張講座が主な事業内容です。オンラインショップでは、押花素材として生花から丁寧に乾燥させて作った「ガーベラの花びらセット」が売れ筋商品です。また、佐々木さんの押花作品は、利府町ふるさと納税返礼品にもなっています。

佐々木さんは、家庭環境や子どもの成長に合わせて自分のできる範囲で事業を展開してきました。一人従業員を雇っていた時期は、それに見合った仕事量と経営力が求められ、個人事業主としての力量も必要だったと振り返ります。

自分の好きな仕事を楽しくすること。その中でも少し先の5年後の姿を意識してきたことが、お店を継続できた秘訣のようです。

仕事の変化を楽しみ 活動の幅を広げる

子どもたちが中学生、高校生になり手が掛からなくなると、少しずつ外に出る仕事が増え、近年のコロナ禍の状況において活動も少し変化してきました。

一つは、仙台市内の障がい者センターに通う方々を対象とした講座の依頼があったことです。目の見えない方には、手で触って分かるものや音がするもの、香りのするものを花材に使ったリースづくり。手の不自由な方には片手でも握れるような工夫をしながらアレンジメントを楽しんでもらったりしています。「作業し易く楽しい講座なので、お花に触れることで引きこもりがちな方々の外に出るきっかけになればうれしいです」。新しい仕事は、刺激になりやりがいがあるようです。

利府町では、町内の小学校の6年生親子と一緒に卒業式のコサージュづくりを行ったり、その他の学年行事・PTA行事でハーバリウム作りの講師などにも呼ばれています。

できないと嘆くより、やったという事実と経験が大事

前職を退職後に起業した佐々木さんは、「私の技術が必要で求められるのであればいつでも提供したいと思っていますし、私の経験が役に立つのであればなんでもお話します」と、これからお店を持ちたい方や起業したい人を応援したいと言います。

5年ごとに事業計画を見直しながら着実に事業を展開してきた佐々木さんに、次の5年の目標を問うと「やりたいことがたくさんあります。機が熟せば今の仕事以外でも新しいことに挑戦したいと思っています」と必ずしも花屋にはこだわらないという意外な答えが返ってきました。「仕事の仕方は変わって当然、失敗してもいいんですよ。やったという事実と経験が大事」と自分の軸を見失うことなく自分の置かれた状況や社会の変化に対応できる柔軟さが佐々木さんの強みでした。

取材・文 葛西淳子

-お店の情報　**華房一輪** かぼういちりん

宮城県宮城郡利府町菅谷台3-4-5
022-766-4270
営業時間 9:30～17:30
定休日 水・日曜 ※その他不定休日あり
kabouitirinn.com

利府町で暮らす面白い人を毎号ひとりずつ紹介していきます

十符（とふ）とは？　……　昔、利府町の湿地帯には、良質な菅（スゲ）草が自生し、「菅薦（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅薦の編み目が10編あることから「十符の菅薦」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十（と）が利（と）に、符が府に変わったと言われています。

---

from RIFU-CHO

CHALLENGER

今回ご紹介するのは、塩釜のコミュニケーションラジオ局RAYWAVE（エフエムベイエリア株式会社）のパーソナリティであり、ミュージシャンとしても活躍するアサノタケフミさんです。

— CHALLENGER

ラジオパーソナリティ・ミュージシャン アサノタケフミさん

パラレルワーク×ワイドエリアで活動

アサノタケフミさんは、ラジオパーソナリティとして毎週平日のラジオ生放送番組「ラジカルト」を担当する一方で、地域を盛り上げるミュージシャンとして利府町を始め仙塩地域で幅広く活動をしています。音楽活動をしていく上で、転機が訪れたのは2011年の東日本大震災でした。仙塩各地でも復興支援活動が盛んになり、地域のご当地ヒーローを生み出す活動が興ってきた頃、近隣市町のヒーローたちや利府町のヒーロー梨ん幹戦士ナシルバーのテーマソングを制作する仕事がきっかけでした。子どもたちが喜ぶ姿やリスナーからの好反応に支えられ、「みんなが喜ぶ音楽を創りたい」と地域に根ざした音楽活動へと方向性を定めていったのでした。

エンターテインメントの力で文化を共創する

利府町と関わるきっかけは2013年、観光ボランティアガイドの櫻井勝男さんとラジオで共演したことでした。番組をとおして、利府町の魅力をたくさん教えてもらったそうです。さらに2018年になりtsumikiとの出会いが、利府町との距離を縮めました。「おもしろいアイディアとやる気溢れる人たちが集まる場所で、自分が持っているエンターテインメントの力を発揮してみたい」と思うようになったのでした。特に、楽曲「いうことなし」が生まれたイベント「梨パラダイス」への参加は、地場産業の梨栽培とエンタメの接点が見え、印象深かったと振り返ります。アサノさんは「利府町の近年の盛り上がりは目覚ましく、他の地域の方も受け入れ、町民の皆さんが主体的に新しい文化や価値を創ろうとしている」と感じているそうです。

経験を生かし若いプレイヤーを応援したい

2022年39歳を機に、自身初のアルバム「39-LIFE-」を発表したアサノさんは、「40代は、これまでとは異なる切り口で仕事に関わりたい」と言います。具体的には、音楽制作・販売やワンマンライブ、放送番組やイベント企画など、自らの経験をもとに後進の活動者にノウハウを継承すること。対価の計り方が難しいこの業界ならではの課題を解決するため、地域で働く文化芸術人材が適切に理解され、仕事の対価を得られるよう、エンタメ界プレイヤーの後方支援活動をしていきたいと考えています。利府町についても「地元で行われるイベントなどに関わる方々がtsumikiに集まりアイディアを出し合い、互いに支え合えばより活発になり、文化やエンタメに強いおもしろい町になっていきそうですね」と語ってくれました。

取材・文　佐々木将太

“利府の町と利府の人が大好き
地域を盛り上げるアーティスト”

— INFORMATION

アサノタケフミ

塩竈市出身、宮城県立利府高校卒業、多賀城市在住。2007年から歌手活動スタート。2014年梨ん幹戦士ナシルバーのテーマソング楽曲制作・提供／2022年ファーストアルバム39-LIFE-リリース／2022年利府町文化交流センターリフノスでワンマンライブ開催。

---

tsumiki COLUMN

「あってよかった」を目指して

tsumikiディレクター　桃生和成

おかげさまでtsumikiは2022年11月19日で6周年を迎えました。2016年の開館以来約54,000名の方にご来館いただきました。

tsumikiでは、これまでソーシャルビジネス、コミュニティビジネスを中心とした小商い活動の支援、市民による社会的な活動を促進する市民活動の支援、イベントによる利府町駅前の活性化等に取り組んできました。地域の魅力をつくる新たなプラットフォームとして町内外にある多くの資源がtsumikiに集まり、新規事業、地域プロジェクト等ここから新しい価値を創造してきました。tsumikiを通して、事業者、クリエイター、NPO、行政、学生等がつながり、世代や立場を超えたネットワークも構築されつつあります。

今後は、これまでのtsumikiの成果と課題を町民のみなさんと振り返り、改めて地域に求められるtsumikiの役割を更新できればと思います。具体的には、町民の意見やアイディアを可視化する利用者意見交換会やまだtsumikiをご利用いただけていない方を対象としたイベント等を実施して、tsumikiの機能を高めていきます。

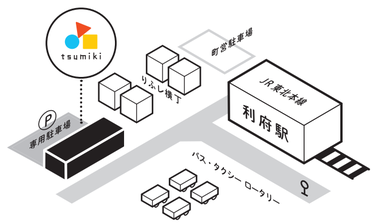
今後とも「地域にあってよかった」と思ってもらえるtsumikiを目指していきます。

tsumiki
利府町まち・ひと・しごと創造ステーション

利用時間
9:30-17:30
（水・金曜日は21:00まで開館）

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL　022-766-9231
FAX　022-766-9232
Email　info@rifu-tsumiki.jp



設置者　利府町（商工観光課シティセールス係）

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。起業・創業や「利府ならでは」のシティセールス政策や、移住・定住施策などに取り組んでいます。

管理運営（業務委託者）　一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto（エスペラント語）は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト	Twitter	Facebook	Instagram
rifu-tsumiki.jp	@rifu_tsumiki	〈tsumiki〉で検索	@rifu_tsumiki

「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。

つみきのキモチ vol.19　発行日●2022年12月10日　発行●利府町　企画●一般社団法人Granny Rideto
編集●葛西淳子・五十嵐千晶・桃生和成（一般社団法人Granny Rideto）　デザイン●伊瀬谷美貴（interagire）